

会 議 録

1 会議名

平成27年度第2回直江津区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【諮問事項】

諮問第44号 三の輪台いこいの広場の一部廃止について（公開）

【自主的審議事項】

直江津まちづくり構想について（公開）

3 開催日時

平成27年4月22日（水）午後6時00分から午後7時55分

4 開催場所

上越市レインボーセンター 第二会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員： 増田和昭（会長）、青山恭造（副会長）、竹内明美（副会長）、
池田伸吾、泉 秀夫、今井不二子、小林克美、田村利男、田村雅春、
冨塚 毅、中澤武志、福島 弘、町屋隆之、丸山朝安、三上正子
（欠席2名）

・事務局： 北部まちづくりセンター：関川センター長、荒木係長、星野主任
産業振興課：米持参事、市川副課長、高橋係長

8 発言の内容

【関川センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【増田会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：三上委員、今井委員に依頼

議題【諮問事項】「諮問第44号 三の輪台いこいの広場の一部廃止について」担当課へ説明を求める。

【産業振興課：米持参事】

資料「諮問第44号 三の輪台いこいの広場の一部廃止について」説明

【増田会長】

質疑を求める。

【町屋委員】

資料と説明の乖離が大きい。例えば、「一部廃止」の内容が分からない。説明を聞くまでバーベキュー広場は無くなると思っていた。説明内容を事前の配布資料に盛り込んでほしい。

全日利用となると、例えば、夏場であればバーベキューをしたり、車のライトを照らして利用されることも予想される。防犯の面で、行政はどう思われているのか教えていただきたい。

【産業振興課：米持参事】

駐車場の出入口にチェーンをして広場を封鎖しているが、一応は入れる状態になっている。15年程前に広場を担当していた当時は、駐車場にバイクが乗り入れられてアスファルト舗装が何回も剥げてしまうケースがあったことは承知している。夜間の出入り状況も今後、検討する必要があるが、警察等に巡回をお願いして、防犯に十分配慮しながら進めていきたいと考えている。

【町屋委員】

出入口のチェーンは施錠しなくても、防犯上は、利用が17時までだとか18時までと明示しておいたほうが良いと思う。

【増田会長】

ほかに防犯に関連した質問はあるか。

【竹内副会長】

火気使用のことだけ注意書きをするというような説明に聞き取れたのだが、今後の対策として、出来れば利用時間も含めて注意事項の看板を立ててもらおうと分かりやすいと思う。利用者同士のトラブルにも繋がりにかねない。

【産業振興課：米持参事】

利用にあたっての注意喚起を含めた看板の設置はしっかりとやっていきたい。利用時間については、たにはま公園も全日利用で通年利用で使えるというような利用形態を取っており、三の輪台いこいの広場もそのような形態でさせていただきたいと考えている。

【丸山委員】

出入口のチェーンは夜間するのかしらないのか確認したい。

【産業振興課：米持参事】

しない予定である。

【丸山委員】

チェーンをしてもらうと助かる。

なぜならば、チェーンを外すことによって暴走行為をする人がまた広場に集まってくるのではないかと懸念している。付近住民はクラクションを鳴らしながら走るため、寝ていられる状態ではない。

【青山副会長】

施設一部廃止の話はよく理解できるが、我々は、廃止後の使用基準を聞きたい。車やバイクの乗り入れ制限で駐車場以外は入られないよう柵を設けるとか、バーベキューはどの場所でできるのか、巡回パトロールの頻度や巡回範囲はどうなのか、そういうことを市民に知らせていただきたい。

【田村利男委員】

不法投棄や車・バイクの暴走行為の問題が懸念させるのであれば、当然、斎場から三の輪台に行く手前で規制すべきであると思う。

【中澤委員】

かつては三の輪台いこいの広場と船見公園が暴走車のたまり場だった。

【町屋委員】

先ほど、たにはま公園も封鎖はしないと言われたが、確かにそういうところは多い。例えば金谷山も夜中でも駐車場に行けるし、上越では夜景のスポットだって。でも金谷山も反面、よからぬ使い方をされているのは間違いない。直江津は過去の歴史としてその恐れが強い。過去にひどい目に遭っているので、「よそはオープンでそんなことになっていない」と言われて「だからここもいい」と思わない。

【産業振興課：米持参事】

現在、チェーンをしているのは、駐車場の入り口部分の2か所である。車が通過出来る状況ではないが、お話ではローリング走行の懸念があるかと思う。

【町屋委員】

三の輪台へ行く登り口から全部そうである。

【産業振興課：米持参事】

今はそういう行為がないと認識している。

【増田会長】

ほとんどの委員が過去の状況を考えた時に、過去に戻ることを非常に懸念されている。実際に戻る可能性がかなりある。そうならないようにどのような対策をするのか。夜間に車両を通すか通さないかという問題と管理人不在により、駐車場以外の広場全体に車やバイクが走る可能性があるということの懸念が出ている。

【町屋委員】

諮問内容を覆すようで申し訳ないのだが、チェーンをする管理人がいないのであれば、せめて、利用時間を日没までにするとかできないものか。そのことによって巡回パトロールの際に夜間いる人を注意することができる。

【増田会長】

利用時間を設けるというやり方と、事態が起きた場合は迅速に対応していただくというやり方があるかと思う。

【泉委員】

我々は時間制限を設けてほしいが、全日ではいけない理由があるのか。あえて夜間まで24時間開放するという根拠が分からない。

【産業振興課：米持参事】

基本的にはチェーンを掛ける場合は、管理人もしくは職員が行く必要がある。

【泉委員】

施設管理委託料の支出が200万円超あるが、今後、予算が半分になるという説明だが、どのような形でいくらくらいになるのか。

【産業振興課：高橋係長】

委託料は140万円程の削減になる。主な要因は、管理人にかかる費用とセンターハウスのセキュリティの費用の必要がなくなるためである。

【泉委員】

決算額概ね300万円から140万円が削減されるということか。

【産業振興課：高橋係長】

そのとおりである。

【増田会長】

整理をする。廃止することに異議はないか。

(はいの声あり)

では、全員一致で了承にする。ただし、今意見があったように、防犯対策や暴走行為の対策、車の乗り入れの件、市民に対する注意喚起は、皆さんが共通に懸念していることである。

【丸山委員】

風車の所管課はどこか。

【産業振興課：米持参事】

環境保全課で管理している。そのまま設置は変わらない。

【丸山委員】

壊れて何か月も経っているが。

【産業振興課：米持参事】

担当課へ伝えたい。

【田村雅春委員】

バーベキューは良いとしても、例えば花火が駄目だとか、防火対策について考えをお聞きしたい。

【産業振興課：米持参事】

基本的に火を扱う作業は全て禁止である。看板にも明記するが、バーベキューもあまり木の傍ではなく、決められた場所で御利用いただく。

【増田会長】

想定外あるいは、想定以上で懸念されていることはもう少し深く対策等を考えていただいた上で、再度御説明いただきたい。また、注意看板の案も出来たら見せていただきたい。

【産業振興課：米持参事】

承知した。

【田村雅春委員】

広場への入口は2か所か。

【産業振興課：米持参事】

そうである。

【田村利男委員】

全日解放にしておくこと理由を答えてほしい。

【増田会長】

先ほど申し上げたとおり、チェーンを掛けるのに管理人の費用がかかることから24時間開放にして経費の節減を図ったのが答えである。

【町屋委員】

先ほどの話では「チェーンをする人がいないから24時間解放にするしかない」と聞こえたがそれが理論なのか。別にチェーンをしなくても、例えば「ここは19時まで」という明示だけでも構わないと思う。

【今井委員】

広場周辺は、暴走行為だけでなく不法投棄の温床になっている。ぜひ、夜間は封鎖してほしい。

【町屋委員】

チェーンを掛けるには人が必要になることから、例えば19時以降は進入禁止にしてしまえばいいと思う。

【中澤委員】

時間を区切ることが出来ない法的な根拠はあるのか。

【産業振興課：市川副課長】

一般道路を規制するのは難しい。今後、管理人が管理する施設ではなくなるため、公園として取り扱っていかうと考えている。時間の制限については、日の長さが今の時期と秋の状況では違うので、皆さんが利用しやすいということであれば全日のほうがいいだろうというのが私どもの議論であった。夜、健全な人は行かないだろうということだったが、夜空を見に来る方から何回も照会が来ている。夜、見たいけど駐車場に車が入れないという方が結構いらっしゃる。

【泉委員】

この公園の目的をもう一度思い返してほしいが、資料に書いてある目的が「休養及び健康増進を図るため」というのは行政のサービスであり、もっと良い方法はないものか。

管理人の経費を全て削るのではなく、チェーンを掛けるのを時間制のアルバイトを雇うとかで経費節減が図られないか検討してほしい。

【増田会長】

今の泉委員の意見も踏まえて御検討いただいて、対策については別途ご報告をいただく。それと看板の案を示していただく。

諮問については了承ということで、本件については終了にする。

— 産業振興課 退室 —

議題【自主的審議事項】直江津まちづくり構想について、事務局へ説明を求める。

【荒木係長】

・資料「直江津まちづくり構想について」の進め方について（素案）の資料により説明

【増田会長】

資料の右側半分は私と事務局で相談して素案を作成した。忙しい日程ではあるが、いづれにしてもやるなら早くやりたいということと、平成28年度予算に提案するため、行政も一緒になって考えてほしいという思いがある。

質疑を求める。

方向を確認したら、7月からワークショップを始めるので準備に取り掛かりたい。内容についてこうしたほうが良いということがあれば随時取り入れていきたいと思う。

【泉委員】

10月末日までに提案というのは予算付けの関係での区切りと思うが、ものすごくタイトな日程である。予算付けとなれば具体的な提案を狙っている訳だが、どの辺までやれるのか、やらなければならないのかが見えない。今の日程で直江津の総意をくみ上げるのは困難である。

【増田会長】

おそらくワークショップを進めると長期計画のことであったり、すぐにできることであったり、また、水族博物館をメインにしてやるべきことなど、いろいろなことが出てくると思う。泉委員が心配されるようにある程度整理していかないと莫大すぎて何をやったらいかが分からなくなることが想定されるため、その辺の整理が必要だと思う。

【泉委員】

新水族博物館をメインにするという話があるが、都市計画のこともあるので水族博物館だけでは直江津のまちづくりは出来ない。しかし、手を付けない訳にはいかず難しい

と思っている。

【増田会長】

新水族博物館については、基本設計を示してもらい、意見を一生懸命言ったが本当に真に聞いてくれたのかと言う懸念は残っている。

【中澤委員】

この間の会議は、要するに基本設計は終わった、だから今更要望されても困るという感じだった。こちらはもう少し吸収してもらえる要素があって、そういうことを聞いてもらえる場なのかと聞いていたが違った。質問等は受けるがハードは駄目、ソフト面は受けるという感じであった。

この話をしていると水族博物館の話が中心になってくるが、ランダムな話から何を話すかを吸い上げていくところから始めると、このスケジュールでは、6月辺りまでに絞り込むことは出来ないと思う。まずは、水族博物館を中心としたまちづくりから話をスタートさせなければいけないと思うし、その前に協議会の中で話題を何にするかということ絞って臨むべきだと思う。

【泉委員】

水族博物館のハード面については、聞いてもらえないと思う。ただ、それに付帯してくる道路整備などは水族博物館だけで出来ないの、都市計画の中でしかやれないと思う。そこを我々としてどう考えていくかということだと思っている。

【増田会長】

周辺の道路や環境整備については、まさにまちづくり構想の中で、こうしたいということ練り上げて提案書として上げたいと思っている。当然水族博物館の周辺施設のことにも入る。住民の皆さんから賛同を得ながらそれをバックにして私たちが意見を上げていくという作戦で行ったらどうかということも含めて今回資料の素案としている。資料の左側を見ると分かるように、「真に必要な事業であるか」とか、「提案は具体的な内容で作成する」とか基本的な考え方があるが、頸城区は「地域を元気するための事業」をやったという実績があるので、それを受けて私たちが考えていきたい。ものすごく大変だということは分かる。これから行政とやり取りをするわけだが、いろいろな知恵を出してやっていかないとこれは実現しない、黙っていたら何も出来ないという危機感があるので、皆さんと最後の頑張りをしたいという気持ちである。

【中澤委員】

補足すると、行政とこちらの関係が通過儀礼みたいにやられると困る。住民と一緒に作っていくという建前を何らかの機会に担当課へ伝えていただければありがたいと思う。

【荒木係長】

思いは伝えてある。担当課としては、思いは承知しているが、地域協議会には、新水族博物館を生かしたまちづくりとして、基本設計より先のことを考えていただきたいと期待している。

【中澤委員】

分かるけど、また基本設計を変えらるとなると何億と掛かる訳だから、そんなことは出来ないというのは分かるが、頭から「もう決まった」という感じでは意見交換にならない。

【田村雅春委員】

新水族博物館のことで2月に川上部長が来られた時は、最終的に後で意見をまとめて伝えるということで、意見を出したのに、もう決まったことだと言われたので少しカチンときた。確かに地域協議会としての意見ではなく、一委員としての意見だったかもしれないが、「皆さんの御意見をお伺いしていろいろと検討したけど、こういう事情でこうなった」というふうに言ってくればいいのに、全く聞き耳を持たなかった。

それと、まちづくり構想のことで聞きたいが、住民との意見交換というのは公募だと思うが、関係団体というのは枠がどの辺までなのか、その辺をお聞きしたい。

【青山副会長】

問題が大きすぎて、10月まででしょ。だから今回は、水族博物館に関係することだけにするとか、柱を1本決めてやっていけばいいと思う。いろいろ出てきて結果的にまとまらない話だと困る。

【小林委員】

この資料を見ると「①意見交換・情報共有」は、ここだけでもどう進んでいくのかという感じで、見ただけで辛くなってくる。実際に、五智の関係で言えば、青少年文化センターがなくなり、周辺整備を要望する地元団体であったり、ライオン像の関係団体であったり、時間がないかもしれないが、どんな問題点があるのかを聞くなどしてはどうか。福島城も核となるが、直江津区で言えば、例えば、五智地区に絡めて水族博物館と行政の中でどうまちづくりの核にしていくかという感じで、具体的に入って行かないときついと思う。

【町屋委員】

スケジュールがきついという部分ともう1つ、小林委員が言われた理由で收拾がつかなくなる部分があると思う。例えば、8月にワークショップをやると記載されている。ワークショップを否定するつもりはないが、結局大抵のワークショップは、皆さん一人ひとりの意見を大事にして、包括的に持っていくという部分が強い。例えば10人の皆さんそれぞれが大事にするものが違う中で、全体としてどうするのかという時に10人の意見をまとめてみんなが納得するものって結局どっちつかずで終わってしまう感じがする。協議会の中でも意見をまとめることは難しいのに、来てくれた市民の皆さんはそれぞれの強い思いがある中で、それにどう対応するか。收拾が付かないという部分とスケジュールの部分、両方タイトだと思う。

【今井委員】

スケジュールが厳しいというのはあるが、基本的には自治組織なので住民を巻き込むことが本筋だと思う。だからこの素案のとおり、住民の意見も取り入れていくということは大事なことだと思う。

【増田会長】

青山副会長も小林委員も心配されているが、私は、せっかく新水族博物館が出来るから、今回は水族博物館を核とした直江津のまちづくりというテーマにしようかと考えている。

【小林委員】

確認だが、住民との意見交換は「新水族博物館を核としたまちづくり」というテーマでいくということか。

【増田会長】

そうである。それは前回、前々回の時に私が「まちづくり構想については、新水族博物館を中心としたまちづくりに絞ってやろう」と申し上げたとおりである。

【青山副会長】

資料に書いていない。

【増田会長】

私も事務局もそういう頭でいたからあえて書かなかった。

【田村雅春委員】

では、公募のタイトルもそういうふうを書くのか。

【増田会長】

当然そうである。

【町屋委員】

水族博物館だけで本当にいいのか。何を言いたいかと言うと、そもそも水族博物館というのがこのタイミングである。同じタイミングで新幹線開業ということがあった。直江津への集客という部分で、そのくらいは絡めていただきたい。

【増田会長】

あくまでもテーマは「新水族博物館を利活用した直江津のまちづくり」ということだから、今回はこれに沿ってやろうと考えている。

【丸山委員】

工業とか農業とかいろいろと部門がある。その中に観光という部門がある。「観光に対して」という括りを作ったらどうか。

【今井委員】

水族博物館をテーマにしてやるということだから、それに観光が付いてくると思う。

【丸山委員】

水族博物館だけをテーマにすると、水族博物館に対してみんなで話をする訳だけど、水族博物館近辺だけの話になると非常に困るなと思って。

【泉委員】

今の話というのは、まちづくりという本を作る。その目次の1つに水族博物館があり、今回は水族博物館の目次の中身を作るという話である。

【増田会長】

水族博物館を核としたまちづくりという小冊子を作ろうということである。

【泉委員】

丸山委員の工業と農業と観光というのも分かるが。

【増田会長】

補足説明すると、丸山委員が言われるのは、水族博物館を観光にどう活かすか、そのために直江津はどうするのかということもあるし、水族博物館が出来て直江津が住みにくくならないようにまちづくりをどうするかという問題もある。考え方の問題で、水族博物館が建っても、水族博物館にお客さんを呼ぶだけを考えればいいのではなくて、地域の住民の皆さんにどういう影響があるのか、悪い影響をどう排除するのかということ

も考えなければいけない。そのためには道路を広くするとか、看板を整備するとか、そういうことも必要である。

【中澤委員】

それでいいと思う。テーマをそれに絞る。あと、我々の問題としては例えばワークショップと言うけど、学校のホームルームみたいなもので、みんなで集まってリーダーを決めてとか、そこからやっていると駄目なので、例えばグループを6つに分けるなら誰が司会進行をやるのかとか、ある程度内々で決めておいて進めて行かないと、このタイトなスケジュールの中では消化できないと思う。

【増田会長】

リーダー等を決めるのに30分も時間を使ったらもったいないので、顔ぶれを見て、「あなたリーダーお願い」とやらないと、変なところで時間を掛けている余裕はない。当然皆さんにリーダー役をお願いすることも出てくると思う。

【田村利男委員】

関係ない話をするが、直江津学びの交流館で直江津まちづくり活性化協議会という看板を見た。あの団体はどういう団体なのか。

【荒木係長】

基本的には商店が中心になって、直江津の町の活性化のためにいろいろ検討し活動している団体である。今回、水族館部会を設置したということで動きがあるようだ。はっきりとしたことは分からないが、地域協議会と同じようなことを考えているかと思われる。団体との意見交換によって直江津まちづくり活性化協議会と連携することも出てくるかもしれない。

【増田会長】

商店街の店主が会員。中心市街地活性化推進室と「まちづくり会社」が後押ししている。その協議会自体が発足して間もない。町を元気にしようと作ったので、たまたま後から水族博物館部会が出来たということである。いずれ意見交換をしながらやっというと思っている。

【泉委員】

資料の中の関係団体とは要するにそういうことなのか。地域協議会の有りようを考えてみると、住民の意見を吸い上げながら、町内会とか青年会とか老人会とか婦人会とか、網羅するとほぼ全員住民になってしまう。「関係団体」ではなく「団体」でいいと思う。

【増田会長】

具体的にこういう団体と意見交換しようとか、皆さんで話し合っただけで決めていくことである。

【三上委員】

対象者が30人程度となっているが、もし集まらなかったらどうするのか。

【増田会長】

手挙げ方式で、来たい人は来ていただく。集まらなかったらそれはそれでいいと、30人以上来たらその時にそれなりの覚悟を持ってということである。

【田村雅春委員】

30人を公募するという事は、私たちが3人ずつ入り、相手は最大で5人くらい。逆に私達が多いような気がする。それと「関係団体」と「団体」はダブってもいいのだろうか。

【増田会長】

当然、素案のとおり、直江津区の住民の皆さんを募集するという事だから、商売をやっている方かもしれないし、団体の方かもしれない。そういう意味である。

【増田会長】

要は、分からないことはみんなで考えて方向を決めて知恵を出そうというやり方である。こんな方法でやったらうまくいくかなというたたき台を皆さんで考えて、概ねの方向を確認して進めて行けばいいかと思う。

では、この方法で事務局と私で相談して、広報や周知方法を進めて行きたいと思う。皆さんからいただいた知恵を必要のところへどんどん入れて良い物にしていくというスタンスである。「こうやらなければいけない」というものは何もない。私たちが試行錯誤しながらみんなで考えていくということになる。そのためには、ほとんどワークショップを経験したことがない住民の皆さんが来る訳なので、それに慣れた方に来ていただいて、進め方について説明をしていただきたいと思います。

事務局に連絡事項を求める。

【荒木係長】

- ・ 次回の協議会：5月13日（水）午後6時～

【増田会長】

委員の皆さんから他に質疑がないか確認。

【泉委員】

会議録のスタイルが変更になったのは全区共通なのか。我々は議長の下に会議をやって、会長の下ではやっていない。

【荒木係長】

会議録の表記が議長ではなく会長であるため、議長に変えるべきかどうかということか。

【泉委員】

そうである。

【荒木係長】

これまで「会長」で表記して来ている。また確認したいと思うが、変えらば全区で変えることになるので、今のところは変えないと思われる。

【町屋委員】

会議の進め方とか、各協議会の区ごとに多少なりとも違うと思う。会議録の統一化について、全区一緒に従わなければいけないのか。「である体」ということで、誰もそんなきつい言い方はしていないし、読む人に語弊を与える。結構見ている人はいるらしい。あえてそんなリスクを犯す必要がないというのが会長の言葉である。もっともだと思ったのに、その理由が「コンパクトにするため」というのがあったが、「全区統一だから」とあえて重ねてくるのは何なのか。

【中澤委員】

何故、統一する必要があるのか。

【関川センター長】

「簡素化」というのが一番の目的である。

【町屋委員】

「である体」を「です、ます」に変えてほしいとお話ししただけである。多少なりとも全体で言えば多くなるかもしれない。だが、それが、簡素化を阻害するものだとは思えないので、理由を付けるなら私たちが納得いくものを提示してもらえればよいと思う。

【増田会長】

私達が言っているのは、要約することは良いが、語尾を「である」ではなくて「です」にしてほしいと言っているだけである。先ほどの話だと「である」だと簡素化になる、「です、ます」になると短くならないような言い方でした。いままで全部載せていたこ

とから考えれば遥かに簡素化になる訳だから、それは誰も納得できないと思う。ましてやこれは、役所の人だけではなくて全国の人が見ている。ということは、全国に上越のイメージをどういうふうに発信するかが掛かっている。そこの認識が至っていないと思うと、とても納得できない。委員の皆さんからものすごく異論と反発が出たと報告していただきたい。

【丸山委員】

全国の人が見ているのは本当である。

【増田会長】

全国から「地域協議会」という存在自体が注視されている。ということは、当然議事録も見られた時に、何故「上越市はあんなに雰囲気が悪いのか」というイメージになってしまう。

【田村雅春委員】

議事録が何ページになろうといいと思う。それだけ伯仲したということ。「である」が何故嫌かと言うと自分自身が決めきれないことでも「である」になると決めきった口ぶりなる。

【中澤委員】

反対意見がだいぶあるようだが、変えることが出来るのか。

【小林委員】

要約してしまうとその会議の雰囲気が出ないと思う。

【泉委員】

議会という話が出ていたが、私はテレビで見ている。だから、議事録よりは遥かに分かりやすい。今、小林委員が言ったように、雰囲気が出る。そういう面ではもう少し丁寧さがあってもいいという気がする。

【増田会長】

皆さんが懸念されていることはよく分かる。「である」でいいと思っている人はいないと思う。

地域協議会は行政の諮問機関ではあるが、自主審議というのがあって、地域協議会に任せられている部分もある。そういう面では、皆さんの御協力を得て意見していきたいと思っている。

【関川センター長】

いままで口語体でしゃべっていたのが、要約文になるということで、全体を整理させていただきたい。これでは、市全体として会の雰囲気が出ないという意見が多ければ見直しという形も考えられるかもしれないのでご理解いただきたい。

【増田会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。